



国際会長ニュース

2025年4月号

ワイズメンズクラブ国際協会 A・シャナヴァスカーン 国際会長 2024/25



親愛なる世界中のワイズメン、ワイズウィメン、そして友人たちへ、

この1ヶ月間、私はラマダンの断食を行いました。それはまた、キリスト教の伝統における四旬節とも重なり、聖週間と復活祭へと続くものでした。これらの神聖な期間は、私たちをより高い価値観に再び導き、平和で公正で苦しみのない世界のために祈るよう誘います。

この1カ月はまた、親愛なる友人でありジャコバイト・シリア教会の主教がシリア正教会の総主教に昇格するという、喜びと誇りの瞬間をもたらしてくれました。私は、バセリオス・ヨセフ総主教に心からお祝いを申し上げる光栄に浴しました。インドにいる私たちのクラブのメンバーの多くがこの教会に属しており、ジョイ・アラパット直前国際議員もレバノンで行われた奉献式に出席しました。

3月2日、私はインド地域議会に出席し、今年度における区の並外れた活躍に心から勇気づけられました。皆さんのリーダーシップ、献身、関わりに感謝します。4月4日には、地域会長と区理事によるオンライン会議が予定されており、これまでの振り返りとこれからの計画が行われます。ワイズ年度の最終4半期を示す重要な月である4月に入り、2024/25年度に設定した目標達成に向けた取り組みを強化する時期になりました。新しいクラブを100創設するという野心的な目標の達成まであと少しというところまで来ていることを報告できることを嬉しく思います。私たちの運動を拡大するためにたゆまぬ努力を続けているすべての区に感謝します。先月、私たちは、トーゴを再び仲間に加え入れ、「ミッション100」の取り組みに新たな国が加わりました。また、ロンドン、ボツワナ、ヨハネスブルグで新しいクラブが結成されたことも喜ばしいことです。

来月、世界YMCA同盟執行委員会がインドで開かれます。ニューデリーのクラブは、インドYMCAとともにグローバルリーダーを迎える準備をしています。

また、4月24日～27日にボツワナで、5月2日～4日にインドで、次期クラブ会長研究所の地域レベルのトレーナー研修を開催する予定です。

また、4月は、ロールバック(原文漏れ)マラリア(RBM)強調月間でもあり、4月25日の世界マラリアデーを記念するよう、すべてのクラブと区に呼びかけています。私たちは、アフリカとインドのいくつかのYMCAとYMIクラブと協力して、RBMプロジェクトの新しい段階を開始します。すべてのクラブ会員に、マラリア撲滅(RBM)、断食の時(TOF)、アレキサンダー奨学基金(ASF)、ビルディング・フェローシップ(BF)など、私たちの国際プログラムを引き続き惜しみなく支援して下さるようお願いします。

国際本部では、私たちの敬愛する国際会計であるデンマークのエリック・ブレイオム氏の早すぎる逝去に伴い、残りの2025-27年の任期のための新しい国際会計の選出を進めているところです。

また、「世界を癒そうプロジェクト」では、未曾有の大洪水に見舞われたチェンマイYMCAを1万スイスフランで支援しました。

この9ヶ月間、素晴らしい奉仕をしてくれたすべてのメンバーとリーダーに感謝します。これからも共に繁栄し、2024/25年を私たちの運動にとって歴史的な年にしましょう。

感謝と希望をこめて



国際会長
A・シャナヴァスカーン



ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)のプロジェクトとプログラムを振り返る

YMIの年度が終わりに近づいています。プロジェクトとプログラムを振り返る時です。私たちは、どこに最大のインパクトを与えたのでしょうか？どうすれば成果を最適化し、効果的に伝えることができるのでしょうか？

大きな課題のひとつは、国際プログラムへの献金が着実に減少していることです。そのことは、永続的かつ前向きな変化を創造する私たちのミッションを充足する能力を制限するものです。今年はTOFの申請件数が異例に多く、資金提供の要請総額は、300,000スイスフランを超えましたが、昨年の寄付額は、82,000スイスフランに至りませんでした。

戦略2032の重要な優先事項は、環境問題への取り組みを拡大することです。2022年に設立された環境保護基金は、カーボン・オフセットやその他の持続可能な取り組みに重要な支援を提供しています。しかし、この基金への寄付は依然としてわずかです。

国際本部では、5月末にプログラムへの献金を締め切りますが、YMIが世界的な奉仕のリーダーであり続けるために、すべての加盟クラブが惜しみなく献金を寄せてくださるよう、改めてお願いいたします。また、クラブが革新的なファンドレイジング戦略を模索することも奨励しています。区には、クラブから集められたプログラム献金を報告するための書式が送られます。このデータは、特定の賞や補助金の受給資格を決定するために使用されるため、区が時間をかけて提出することを強くお勧めします。

4月の強調項目

- **Week4Waste** - 4月は、Week4Waste(ゴミのための週)を強調します。これは、クラブが地域社会の清掃活動に参加することで、環境への取り組みをアピールする絶好の機会です。ゲストを招いたり、他のグループと提携したり、YMIのマークの入った衣服を身につけたりすることで、認知度を高めましょう。
- **ロールバックマラリア** - 4月は、ロールバックマラリアの月でもあります。戦略2032におけるYMIのグローバルインパクト・プロジェクトとして定義され、YMCAや現地の保健パートナーと協力して新たな行動計画を進めています。この企画は、インドとアフリカ3カ国で開始され、意識向上、防護蚊帳の配布、予防接種キャンペーンの支援を目的としています。アジア太平洋地域への拡大も計画されています。

BF 申請締切日

BF補助金の申請締切日は5月1日です。今年度は、韓国とスリランカへの2つの文化代表訪問が用意されています。また、BFプログラムでは、自国または海外の区大会や地域大会への参加も支援することができます。

国際会計選挙

先日亡くなったエリック・ブレーオム国際会計の後任の選挙に関する手続きは、まだ進行中で、来月には結果が発表される予定です。

参加と貢献

YMIIがより良い世界を築くために継続的な成功を収めるためには、皆さまの参加と貢献が不可欠です。一緒に行動を起こしましょう！

編集長から

編集長に、国際会長ニュースに関するあなたの考えやアイデアをお知らせください。

5月の強調月間は、**リーダーシップ開発とユースの関与**です。

以下をクリックして、4月15日までに記事を投稿してください。

[編集長へ](#)





ロールバックマラリア

4月はロールバックマラリア(RBM)強調月間

ロールバックマラリア国際事業主任 トニー・リャオ(台湾)

4月はRBMの強調月間であり、このYMIの重要なプロジェクトへの取り組みを強化する絶好の機会となります。4月25日は「世界マラリアデー」で、マラリアとの闘いを世界的に呼びかける日です。2019年、YMIは、グローバルファンドとのパートナーシップを締結し、マラリアの負担を軽減し、最終的には根絶するための取り組みを支援するために、年間10万米ドルを寄付することを約束しました。

YMIクラブのメンバーのほとんどはマラリア感染地域に住んでいないため、この病気が引き起こす被害を十分に理解していないかもしれません。しかし、国際的な組織であるYMIは、私たちの公約を実現し、マラリアとの闘いに積極的に貢献する役割を果たさなければなりません。このプログラムに対する認識を高め、この重要な目的を推進するための効果的な資金調達戦略を採用することが重要です。

2013年以降、台湾区のリーダーたちはRBMの課題に全面的に取り組み、関連目標の達成に専念してきました。台湾では、各クラブメンバーに少なくとも200台湾ドル(または殺虫剤塗布済み蚊帳1枚の価格に相当する金額)の献金が求められています。RBM国際事業主任(2020/21年度と2024/25年度の2期就任)として、私は、台湾の会員(ワイズメネットを含む)に、RBMに惜しみな献金するよう引き続き呼びかけています。まずは、私自身が寄付を行うことで、模範を示したいと考えています。

今年(2024/25年)、台湾区はRBM基金に6,500米ドル相当を寄付するという年間目標を達成する見込みです。現台湾区理事のパイ・スン・スー、アジア太平洋地域RBM事業主任のフアン・チン・ツァイ、部長のラッキー、そしてその他の熱心な献金者の方々に感謝いたします。



以下の写真は、RBMのさまざまなプロモーション活動や募金活動の様子を紹介するものです。

タイのチェンマイで開催された2024年国際大会では、私たちの尊敬する西村元国際書記長が、RBMの資金調達を目的としたチャリティゴルフ大会を企画してくれました。このイベントでは、合計2,300米ドルの寄付金が集まりました。私たちは、西村さんの尽力に心より感謝いたします。



ハイライトビデオ視
聴はここをクリック

フォト・ギャラリーを見るに
はここをクリック

タイ・チェンマイにおける2024年RBM ゴルフトーナメント

最後に、私は、すべてのレベルのYMIリーダーとメンバーに、RBMプロジェクトの重要性を認識するよう強く呼びかけます。この重要な目的のために、お互いに刺激し合い、意欲を高め合いながら、できる限り多く献金していきましょう。



RBM献金を贈呈するトニー・リャオRBM国際事業主任とスー台湾区理事

イースター

キリスト教強調国際事業主任 ビリー・モルゴー



イースターの説教の最後に、407年に亡くなったヨハネス・クリュソストモスの説教を聴くことが多くの正教会で行われています。私も自分の説教で、しばしばそうしています。彼は、コンスタンチノーブルの総主教でした。彼の説教は、こう終わります：

「すべての者は、主の喜びに入れ。最初の者も、最後の者も、俸給を受け、富める者も貧しい者も、互いに喜べ。断食した者も、断食しなかった者も、同じように今日喜びなさい。貧しさのために泣く者は、いない。貧しさに泣く者はいない。すべての人に共通する王国が到来するのだから。罪のために悲しむ者は、いない。赦しは、墓から放たれているのだから。誰も死を恐れない。救い主の死が私たちを贖ってくださったのだから。死者の国に下られた方は、地獄を鎖でつないだ。キリストは、よみがえり、悪魔は倒れた。キリストは、よみがえり、天使たちは喜ぶ。キリストは、よみがえられ、命は生かされた。キリストがよみがえられたので、死者はひとりも墓の中に残っていない。キリストが死者の中からよみがえられたのは、そこに眠る者の中で最初の者だからである。彼に誉れと支配とがとこしえにある。」

この説教は、万物帰新信仰が支配していた時代のものです。すなわち、使徒言行録3章21節によれば、とりわけ彼らは、すべての人が救われると確信していました。マタイ18章14節でイエスは、言われています。「そのように、これらの小さな者が一人でも失われることは、天におられるあなたがたの父の御心ではない。」。そしてヨハネによる福音書14章2節で、「私の父の家には住まいがたくさんある。もしなければ、私はそう言っておいたであろう。あなたがたのために場所を用意しに行くのだ。」とされています。

イースターのメッセージは、私たちがこの世を去った後、神とともに生きるという信念を強めるものです。

イースターおめでとうございます！



多くの国で、この水仙という花はイースターに関連しており、詩人たちは、この花を「イースターの花」と呼んでいます。多くの意味で、この花の黄色は、いくつかの国ではイースターの色でもあります。

韓国地域のニュース

韓国地域会長のパク・ジョンアン、アメリカ消防署を訪問し感謝の意を示す

2月18日から25日にかけて、韓国地域会長のパク・ジョンアンがアトランタとカンザスシティを旅しました。自動車製造のためのロボット溶接オートメーションに特化した会社のオーナーである彼は、この機会に、最近の山火事で壊滅的な被害を受けた場所のひとつであるパシフィック・パリセーズ地区を訪れ、消火活動に尽力した地元消防署の消防士たちに個人的に感謝の意を表しました。

1月初旬にロサンゼルス西部海岸線と東部内陸部の両方で発生した山火事は、史上最大規模のものでした。ロサンゼルス史上最悪の山火事と呼ばれ、31,000エーカー以上の土地が焦土と化し、数十万人の住民が避難を余儀なくされ、数人の命が奪われ、何千もの建物が破壊されました。

旅に出る前、パクは、韓国地域のワイズメンのロゴが入った特別な封筒を用意しました。ロサンゼルス滞在中、彼は、アーバインにある娘の家を訪れ、娘の友人の協力を得て、パシフィック・パリセーズ消防署を訪問する手配をしました。当日は、婿、娘、孫、娘の友人とその子供、総勢8人が参加しました。

消防署長は、一行を温かく迎え、さまざまな種類の消防車とその機能について詳しく紹介しました。子供たちはその体験に魅了され、熱心に耳を傾け、大興奮で消防署内を探検しました。消防士たちの献身と奉仕に感謝し、パクの孫娘から、彼らの継続的な活動を支援するための1,000ドルの寄付金が贈られました。

この心のこもった訪問は、壊滅的な山火事から地域社会を守る消防士たちのたゆまぬ活動に対する感謝と認識を示す有意義なひとときとなりました。



TOF プロジェクト

最新情報

TOF 21-02 : ルワンダ・豚舎プロジェクト (隣人-「1頭の豚」で人生を変えよう)

養豚は、ルワンダで最も収益性の高い所得創出活動の一つである。2021 年、韓国のハンリバー、テグワールドワイズメンズクラブは、イネツァ養豚牧場プロジェクトのために TOF の資金を申請し、受領しました。カロンギ地区を拠点とするこの取り組みは、豚の世話のトレーニング、飼料の初期供給、獣医のサポートを提供しながら、200の貧困世帯に1匹の豚を配布することを目的としていました。

プロジェクトの最終報告書では、2024年12月までに、完全に稼動する豚舎の建設が成功し、26頭の子豚が誕生して配布されたことが確認されました。繁殖が進むにつれて、選ばれた家族にさらに子豚が割り当てられます。これらの農家は、また、必要としている他の地域住民を特定し、彼らの訓練を支援し、受給者間で繁殖プログラムを拡大するために協力します。

プロジェクトの初期段階から、参加農家は、労働力と食料生産などの農業活動を通じて、運営費の60%を拠出してきました。時間の経過とともにこの割合は減少し、最終的には子豚の販売で運営費の100%を賄うことになります。プロジェクトの中核的使命を維持しながら、持続可能性を確保しています。



TOF 21-02 ルワンダ

TOF 23-06 YMCA 農業学校 (YAS)



インドのYMCA農業学校(YAS)プロジェクトは、社会から疎外された100人の農民が、現在の状況下で収入能力を高めるための知識と専門技術を身につけることを目的に開発されました。現在までに5回の研修プログラムが実施され、それぞれ20人の農民が参加しました。研修が水稻栽培の最盛期と重なり、農民の完全参加が妨げられたため、実施上の課題に直面したこともありました。このような小さな問題もあったものの、政府機関との強力な連携と実施チームとの効果的なコミュニケーションにより、円滑な実施が確保されました。現在、第6回目の研修セッションが進行中で、間もなく最終報告書が完成する予定です。

TOF 23-06 インド

韓国に本部を置くアジア・太平洋YMCA同盟(APAY)が開始したYMCA地球平和エコロジーセンター(GPEC)プロジェクトは、気候変動対策と平和構築への青少年の参加を支援することを目的としています。第1回報告期間中、このプロジェクトは、チェジュ島にある APAYの新事務所に会議施設を備えることに成功し、さまざまな青少年プログラムの開催を可能にしました。主な成果としては、「気候擁護者ワークショップ」(ソウルの米国大使館との共催)、「青年の集い・平和フォーラム」(韓国YMCAとの共催)などがあり、合わせて13カ国から約200人の青少年が参加しました。現地での宿泊施設の不足が課題となり、参加者には外部の宿泊施設が必要となりました。これに対処するため、プロジェクトは、資金を調達し、オフィスの近くに宿泊施設を建設する予定です。プロジェクトは主要目標を達成し、割り当てられたTOF資金を使用しました。まもなく最終報告書が発表される予定です。

TOF 22-04 人材育成(スロバキア)

スロバキアにおける人材育成プロジェクトは、YMCAの使命について理解を深めながら、リーダーシップスキルを身につけた若者を育成することを目的としています。この半年間、全国の様々なYMCAでYMCA基礎研修が実施されました。キーとなる取り組みのバンスカー・ビストリツァの「YMCAスペース」プロジェクトでは、キリスト教系の小学校に通う青少年を対象に、週1回の教育カフェを開催し、ユニークな指導者養成の手法を取り入れました。スタッフの入れ替わり、財政的な制約、不測の事態によるプログラムの中止など、当初の課題にもかかわらず、プロジェクトは目標を達成し続けています。今後は、YMCAサマーキャンプとの連携強化、YMCAファンダメンタルズ・シリーズの拡大、次回のスロバキアYMCA大会に向けた青少年ボランティアの育成などに注力し、プロジェクトの継続的な成長とインパクトを確保していきます。最初の3回分の支援金給付が終了し、最終報告書の提出が求められています。



TOF 22-04 スロバキア

TOF 22-01 YMCAガンビア・ユース・エンパワメント・センターの建設



TOF 22-01 ガンビア

フィンランドYMCAとガンビアYMCAは、バンジュールでの新しいトレーニングセンター建設に焦点を当てたパートナーシップ協定を結んでいます。新しい教室棟の建設を支援するためのTOF資金の要請があり、承認されました。約束した建築ローンの確保や、多忙な現地総主事との調整が難航したため、プロジェクトの開始は遅れましたが、センターの工事は、ようやく始まりました。主な成果は、ボーリング、基礎工事、資材調達などである。次の目標は、協力関係を強化し、明確なコミュニケーションを確保し、理想的にはTOFの追加資金の支援を受けて建設を継続することです。

チリ・バルパライソの「希望の回復」プロジェクトは、2024年の森林火災で被災した地域社会に支援を提供しています。初期段階において、このプロジェクトは、専門チームの設立、ボランティアの参加、子ども、若者、高齢者のためのレクリエーションや心理的支援活動の実施に成功しました。1,500食以上の食事が配給され、被災した7つのコミュニティでメンタルヘルスケアの取り組みが実施されました。参加者の動員、調整、安全な活動場所の確保といった課題にもかかわらず、地域社会とのパートナーシップの強化、特別な支援活動により、前進を維持することができました。今後さらに、このプロジェクトは、メンタルヘルス支援を継続し、学校での活動を拡大し、被災家庭に必要な物資を届ける予定である。



TOF 24-08 チリ

TOF プログラム

「断食の時」(TOF)は、世界YMCA同盟との取り決めにより、発展途上国の地域に金銭的支援を提供することから始まった、国際ワイズメンズの年次献金プログラムです。

TOFは、現在、大変よく知られたプログラムであり、伝統的に、世界中のワイズメンズクラブメンバーが少なくとも1回の例会食事(通常2月の間)を断ち、その食事代相当をTOF基金に献金します。TOF基金は、このようにして集められたお金を世界中のワイズメンズクラブやYMCAが支援するプロジェクトに提供しています。TOFは、1972年の創設以来、今日までに開発プロジェクトや災害救援のために700万米ドル以上を集めています。

YMI 最新情報 (世界の各地から)

アフリカ地域



カカメガワイズユースサービスクラブがケニアのアマレンバ小学校で清掃・衛生活動を行いました。

アジア太平洋地域



YMIのカーボン・オフセット基金/環境保護基金の支援により、スリランカYMCA同盟ビルに太陽光発電システムが設置されました。



Week 4 Waste : 台湾・台中部による海岸清掃

YMI 最新情報 (世界の各地から)

インド地域



ムヴァトゥプーザタワーズ・ワイズメンズクラブが、ムヴァトゥプーザのKSRTCバススタンドにバス案内所とバス待合ベンチを設置しました。

韓国地域



団結と親睦を祝いながら 韓国地域直前区理事がチョンジュに集結
韓国地域直前区理事が2025年3月21日、チョンジュに集結し、共通の旅路と永続的な親睦を祝いました、2023/24年度の区理事とその配偶者が一堂に会し、深い友情と結束を強め、奉仕を通じて結ばれた絆が期を超えて続くことを再認識しました。

ワイズメンズクラブ
国際協会

Rue de Lausanne 121
CH-1202 Geneva
Switzerland
www.ysmen.org



[Facebook](#)



[Instagram](#)



[YouTube](#)